

# 金属技研、ギガHIP導入



長谷川社長

世界最大級のHIP（ギガHIP）熱間静水圧プレス）装置を09年末に導入予定の金属技研（東京都中野区、長谷川数彦社長、03・5365・3050）が、国際会議で注目を浴びた。米・カリフォルニア州で開催された「国際HIP会議」で長谷川社長ら金属技研の技術陣4人が講演。早くも複数の外国企業からギガHIPを使うた加工の引き合いがあるなど、予想を超える反響があったという。

国際HIP会議は3年に1回開かれるHIP関連技術の唯一の国際会議。欧米、日本、韓国など16カ国から大学、研究

所、装置メーカーの研究  
者や技術者約200人が  
参加した。

HIP装置は金属粉末  
の焼結、金属同士の接合  
や、金属部品の  
内部欠陥をなく  
す改質などに使  
う。金属技研は  
航空機部材や発  
電機のタービン  
ブレードなど、  
高熱・高圧の過  
酷な環境で使用  
される高精度な  
金属材料の加工  
が主事業。年商  
約100億円な  
ら、2010  
年までに60億円

## 国際会議で大きな反響

いる。これまでは径1500mmが最大だった。長谷川社長の講演には「日本の中小企業がなぜ世界最大級のHIP装置を導入するのか、導入して一体、何をしようというのか」など、参加者の話題になり、会場は立ち見が出るほどだった。

今回の国際会議は金属技研にとって、実質的な世界デビューであり、作戦は見事に成功したようだ。ただ、あまりに大きなHIP装置導入だけに、それに見合った仕事量の確保がこれからの課題。国内での同社の技術力は、JIPARC（大強度陽子加速器施設）の要素部品を手がけるなど高い評価を受けている。今後は海外展開を視野に入れ「生き残りをかけて激戦市場に打って出る」

級の容器径2000mm、高さ4200mmのギガHIP装置の導入は投資計画の目玉。すでに海外メーカーに発注して

（長谷川社長）構えた。